

JAXA の本間執行役が口火を切り、滝口室長と大澤プロマネが資料 9-2-1 から 3(災害監視 SAR 衛星の回答)を 30 分弱で説明を行った。その後、6 分強の質疑応答が行われた。

青江部会長: 質問等に対する解答を説明された訳ですが、ご議論をお願い致します。(暫く発言なし)

それでは私の方から先ず皮切りをさせて頂いて、3メートルの有効性ですかネ、3メートルでもユーザから見ると「これは1メートルををやりますよ、其れ位有れば十分使いでが有るんですけどネ。」と云うお話が来てる訳ですネ。有る訳ですネ、ユーザーサイドから。で、ええと、通常の基本モードと云うんですか、通常運用してるモードだと、大体3メートル×3メートルでズッと取ってる訳ですネ。で此の衛星、災害監視の一番大きな目的は、何か大規模災害が起きた時に所謂実働する部隊、自衛隊とか警察とか消防とか、そう云う機動部隊が非常に効率的に動ける様に、其の為に良いタイミングで、一覽性の大きな広域の情報をポンと上げる、此れが一番大きなお役目な訳ですネ。そうすると、まあ、あの一、其の時に役に立たなきゃいかん訳ですネ。ですから3メートル分解能でも、そう云う局面に於きまして、御役に立ちますかと云う質問なんですけどネ。どうもネ、此処へ書いてあることを理解すると、先ずは主要幹線道路、主要橋梁、斯う云ったものは3メートルでも十分見る事は出来ますと。従って自衛隊等が動くと云うのは、かなり非常に早い時間帯で動く訳ですネ、発災後。其の時の、非常に早い時間帯

では3メートルの分解能で分かる主要道路辺りが分かれば、先ずは初動が動けるだろうと。それで其の次に回ってきた段階で、1メートル分解能までの詳細なものを渡してやれば、より其処から先の細かい処へ行けるだろうと云う事で、一種2段階と云う風な手順を踏む事によって、自衛隊等に御役に立てるんじゃないかと。だから、先ずは発災直後と云う意味に於いては3メートルでも十分役に立ちますと云う理解で宜しいですか。

JAXA 滝口: はい、其の通りで御座います。

青江部会長: そう云う事が書いてあるの? 此処へ。

JAXA 滝口: はい、3メートルによって目視判読できる効果と云うのは、パワーポイントに付けて居ります、主要橋梁等を識別出来ます。それからもう一つは、其の次にやる事は、平時の取り貯めとの差分によって、此処がおかしい、異変があると云う当たりを付けた情報を渡す。そう云う中で、自衛隊等もですネ、自分達の情報収集手段、人が行く、ヘリコプタが飛ぶとかですネ、併せ技で行く。何か、矢張り夜間であればそう云う事は出来ない中、我々も、追ってですネ、1メートル×3メートルの高分解能解析画像で更に追打ちを掛けて情報を渡すと云う、情報の重ね合わせで以て、防災機関の動きに貢献して行きたいと云う事を書いて御座います。

青江部会長: あの、此の資料に書いてある、大規模災害有無の広域判断が3メートルでも可能と書いてありますが、要は、其の広域判断が可能と云う意味は、さっき私が申し上げた

様な意味だと理解して宜しい訳ですネ。
JAXA 滝口: はい、済みません、言葉足らずで。
(大分無言が続き)

栗原: はい。

青江部会長: どうぞ。

栗原: あの感想を一寸述べさせていただきます。まああの、国民生活の安全・安心と、日々の経済活動の安全・安心にこう云う事が適用されるって云う事になるんですかネ。非常にこれは嬉しいナと、斯う云う形で宜しいと思います。まあ、従来だったら研究開発とか宇宙探査とかですネ、そう云うのが多かったんですけれども、まあこう云う様な、まあ、産業化って言えば産業化と云う面もあったんですけど、こう云う農林水産業での利用と云う、何ですかネ、データを蓄積してく事で多分、色々な用途が広がってくんだらうなって部分で、非常にこれは宇宙が安全・安心のムニヤムニヤ。活動の問題とかネ、まあ産業としても日々安全でないとな産業が発展出来る訳じゃないから、まあそう云う意味で、色々が良いと思いますネ。まあ其れに利用が、ホントに宇宙が利用される、宇宙と云う活動出来る、此れ期待出来る事業になるかなと思って居りますので、進めて貰うと有難いナと。

青江部会長: はい。他、先程のあの、JAXA 側からの追加説明に対しましてのご質問は宜しゅう御座いますか？

其れではですネ、此処までの皆様方からのですネ、ご意見、それから JAXA 側の回答、こう云ったものを踏まえまして、事務局の方で資料 9-2-4 で、(以下省略)

事務局の瀬下補佐が資料 9-2-4(災害監視 SAR 衛星の評価結果案)を 25 分程で説明した。その後 10 分強の質疑応答が行われた。(審議の過程で大分批判の声が上がって居たにも関わらず、各項目とも評価は「妥当」であった。また、全体の中で一件だけ「問題がある」と評価したものがあつたが、JAXA の説明の中でその誤解は解かれたものと評価された。)

青江部会長: 評価の結果のとりまとめにつきまして、ご意見等御座いますればお願い致します。(暫く発言なし)

宜しゅう御座いますでしょうか。どうぞ。

廣澤: 事前評価の案として、全体に良く纏まって居りまして、評価出来る内容だと思います。防災の事は十分論じられており、分かり易い内容になっているかと思いますが、もう一点 L バンドの SAR の意義、有用性ですネ、確かに詳しく論じられて、其れも良い内容と思います。其れから平常時の問題ですネ。此れについても各所で適切に言及されて居りまして、十分な内容度だと思います。一点、その他の処、7 頁の下から 3 つ目の項に、『「だいち」による実験の実施について検討を望む。』と云うところですが、此れはあの、正直申しまして私の提案です。まあ、質疑でのやり取りもありましたし、まあ、此れあの、打上げ前に試験してない事は、実際上がってからするべきでないという哲学もありますので、慎重な検討が必要です。本文にですネ、此の項目は載せない方が良いんじゃないかと、私は思いますが、如何で御座いましょう。

まあ、これは削除。但し、プロジェクトはですネ、こう云った示唆が、提案が有った事は良く分かってらっしゃってますから、まあ、自由度の有る検討をして頂いた方が良いと思いますから、出来ましたら、此の本文から削除して頂きたいと思います。

青江部会長: はい。

廣澤: 後ろの方の個人意見としては、これは残して頂きたい。

青江部会長: 先程の JAXA の回答もですネ、其処の処は相当慎重な見極めと言いましょかですネ、まあ後期且つ慎重な検証の上でと云うのが付いて居った訳ですけども、確かに仰られた通りですネ、折角動いてるヤツに対する一定のリスクが有る事も間違いない訳で御座いますネ。後期とは云え。と云う事になりますと、取敢えずこれは取っておきましょうか。はい、分かりました。じゃあ、此の2行を削除と。

それから廣澤先生が言われた、所謂災害の為の技術立証、利用実証をやる為の衛星と云うのを、此れを主眼に置いた所謂国家プロジェクトなんですネ。其れでも現実問題は、その、災害と云うのはそんなにのべつ幕なし起こるわけでは決してないから、そのまあ、ALOS 後継的な面での利用と云うものにつましましては、こうやって色々注文を付け、且つ JAXA もですネ、其の点についてのですネ、色んな事を考えて、開発の段階迄に、かなり、其の面での利用の仕方ですネ、と云うものも民間にも有ろうと思うんですネ。民間等をどう活用するかと云った、そう云ったものを含めて議論、あの、検討が進むと思いますので、其の上で又開発段

階でご議論頂いたらどうだろうか。注文は一応出したと云う事で宜しゅう御座いますでしょうか。

廣澤: はい、大変結構だと思います。

青江部会長: はい。

永原: 宜しいでしょうか。

青江部会長: あ、どうぞ。

永原: 私一寸あの、前回欠席したもんで、前回の議論が分からないんですが、前々回の時にも結構質疑があって、前回の質問に対する解答なんかに於きましても、これはユーザって云うものがあるって、此れがどれだけ役に立ってるかって、災害時に。つまり、その、ニーズがどの様な形で有って、其のニーズにどう云う風に応えられるかって事が非常に矢張り重要な要素だと思うんですネ。それで、今回の回答の説明を見てても、結構皆さんがどう云うニーズがあるのかって云う具体的な質問や何かに対して、具体的なニーズって云うよりは、斯う云う事を供給出来ますとか、そう云う事が可能ですって云う、割と JAXA サイドの説目がずっと続いて居りまして、もう此の頃に於いて、折角此れだけのものを出来たけど、相手のニーズに上手く合って居なく、十分利用されなかったとか云うと、矢張り大変まずい事なので、是非、何かその、此の評価の中にですネ、今後に於いてもっと意識的に、其れはやっぱりニーズとこの、合致ですネ、まあ相手の有る、やっぱりどう云う事が求められて行くのに、此れから、例えばその、1時間以内にこう云う事で、数時間、2回目の時にこう云う形でって云うのが、向うの要求通りにある

か。それから、もっと定常的にデータをどう云う形で供給できるかを、サイバシステムに。そう云う事を非常に科学衛星とは違って、そう云うもの、つまりユーザの立場って言いますかネ。其れを少し念頭に置いて今後の計画を、まあ、其れはその、地上設備とかソフトの開発とか、恐らくそう云う部分だろうと思うんですヨネ。で、トトロアノ(?)留意して今後進めて頂きたいと云う事を、何かコメント的に加えて頂ければと思います。

青江部会長:先ずですネ。ええと一点。今回の此のプロジェクトが、正に此れの利用者と云うのは多分ですネ、先ず第一次利用者と云うのは防災に関わる官庁、官庁と云うか役所ですネ。あの、中央防災会議の事務局であったりですネ、消防庁であったり、地方公共団体のこう云うところですネ、防災関連当局ですネ。随分沢山あると思います。色々な処にあると思いますが、其処が第1次ユーザですヨネ。そのユーザとの関係と言いましょか、其のユーザのニーズとのマッチングと云うのが、此れはどの位此の衛星と其の撮れるものが出来て居るのかと云うのはもう少しキチンとですネ、もう一度ご説明をキチンとして頂いた方が良いと思うんですけどネ。其の上で、更に、此れから先未だ開発過程で動く訳ですから、そう云う処とのインタラクションに対して、どう、より、濃密に取って行く、良くして行くかと云う2段階ですよネ。ですから、少なくとも此れを、此のプロジェクトをハウゲツ(?)して頂くに、此の段階でのマッチングは此れだけ出来とりますと云う事だけは、キチンと明確にしといたらどうでし

ようか。

JAXA 滝口:はい、あの、前回もその、お手元に。あの、ご欠席と云う事なので、後で渡しますが、こう云った検討会、それから其れを継続した取り組みと云うのはご説明させて頂きまして、正に日々、防災機関とALOSを利用した防災実証実験と云う枠組みの中で、まあ、此処でも一回アウトライン示させて頂いているんですが、その後、矢張り防災機関のまあ、色々ですネ、事情とかも把握しながらですネ、日々ALOSを活用した実証実験の中でニーズは聞いて居ります。で、其れを反映したのが正に今の SAR 衛星システムで御座います、正に広域の概況把握、此の情報があると有難いと云う事で、矢張り我々光学衛星レーダ衛星両方必要だと思っておりますが、まあレーダ衛星から優先して行きたいと云うのは、全天候型で、夜でも情報を。まず大きな広域の中でどこがおかしいかと云う当たりを付けると云う処が、防災機関からのニーズとして聞いて居りまして、まあ、正に其れに基づいて、今日ご説明させて頂いた処で御座います。

池上:一寸宜しいですか、今の件で。あの、ユーザのですネ、色々私も防災関連のユーザと話してるんですが、ユーザの方も実はですネ、衛星をどう更に上手く使うにはどうしたら良いかって云う事については、必ずしも明確じゃないんですネ。で、災害が起こって初めて、今回の下水道ですか、あの事故についても想定していなかったと。ですから此れから多分 JAXA の方が情報提供してって、で、あの、ユーザサイドも色々経験してって、其処で又新しいユーザイメ

ーじって云うのが、明確になってくんじゃないかと。だから、必ずしもあの、色々。使い方についても或る意味では研究目標じゃないかって考えて居りますんで、其の辺は寧ろ大学の先生型に色々アドバイス頂きたいと思っています。

青江部会長:あの一、リファーされたあの本ですネ。あそこには所謂、少なくとも国も行政機関レベルに於ける防災に係る部署が全部入ってるんですネ。其れで集まって議論をして、こう云った風なニーズが、あの、こう云う衛星を作ってくれば我々はこう使いたいと云う事は明確になってるんでうネ。其れについて所謂ヒットしとる事だけは間違いないんですネ。ただ、此れは多分役所の悪い癖だと思いますがですネ、げにそう云った防災と云う様なシビアな仕事をしとる部局はですネ、所謂現業と云うのは、割合軽々にコミットメントしないんですネ。あの一「使いましょう。」とでも言いましょうか、其の自分の日々の現業業務にですネ、此れを確実に組み入れましょうと云う事をコミットメントしないんですよネ。「先ず作って見て下さい、それで色々使わして見て下さい。」と云う処から始まるんですネ。だから今は其の時期だと。但し、今繰り返し申しますけれども、其れだけの部局の人間が全部集まって来て、「こう云うニーズがあります、そして、こう云う情報を出してくれれば、其れは使ってみましょう。」と云う処迄は言うて居るんですネ。ですから、ニーズとの、現段階に於けるマッチングと云うのは、相当キチンと為されて居るかなって云う気が致しますけどネ。

事務局 瀬下補佐:宜しいでしょうか。報告書の中の5頁の(3)開発方針の上の処で、JAXA が今、提出してます開発方針の中で、利用機関との緊密な連絡をとると云う事で、先程来説明に有ります様な取組をしていると云う事から、一応、或る意味では釘を刺している様な形になりますけども、此のプロジェクトにつきましては「利用者の十分な満足を得られて初めて意義を持つと、其れから取得されるデータについて利用者と意識のズレが無い様に、計画段階から実行段階に至る全てのプロセスに於いて、常に綿密な連絡を取りつつ進めることが肝要である」と云う事を記載させて頂きまして、今、永原委員からご指摘の様な事は、此処に一応書かれていると云う風に考えています。

青江部会長:他、如何で御座いましょうか。それではですネ、若干、今読んでみまして、少し文章的にも練れて無い処も一寸見受けられましてですネ、其の辺の脩文は一寸大変恐縮で御座いますが、私に任せて頂くと云う事で以ちまして、此の考え方と言いましょうか、此の評価結果につきまして、ご了承頂けたと云う事で宜しゅう御座いますでしょうか。

青江部会長:はい、どうも恐縮で御座います。